

# WILCOMM

## WilMail 受信機能 (ユーザープログラムの作り方)

**For Wilcomm Ver.8.xx**

MAL022 (Last Update : 2017/03/08)

WilComm AS400 V8.03

© Copyright 2017

株式会社フェアディンカム

## WilMail 受信機能(ユーザープログラムの作り方)

---

本解説書は、WilMail の受信機能によりメールに添付された添付ファイル (CSV ファイル又はテキストファイル) を iSeries の DB に取り込むための方法について解説しています。

**尚、当マニュアルは OS / 400 のバージョンが V4R4M0 以上の場合を対象に記述されています。**

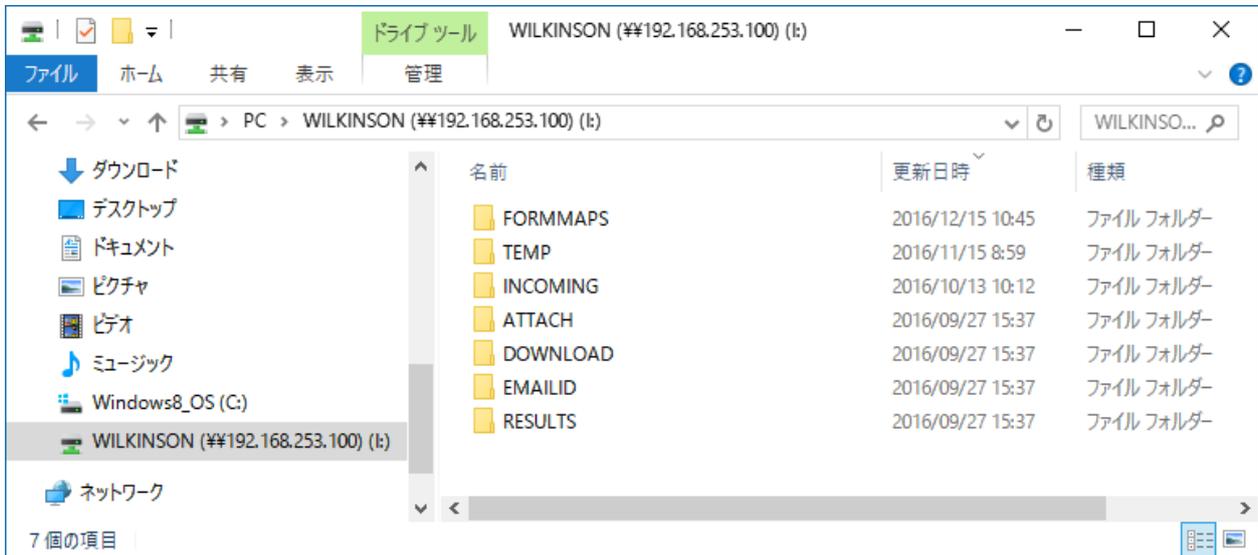
## 目次

1. 添付ファイル保管用フォルダの作成.....	4
2. 添付ファイル保管先の設定.....	5
3. 添付ファイル取込サンプル・プログラム.....	7
4. 補足.....	12

# WilMail 受信機能(ユーザープログラムの作り方)

## 1. 添付ファイル保管用フォルダの作成

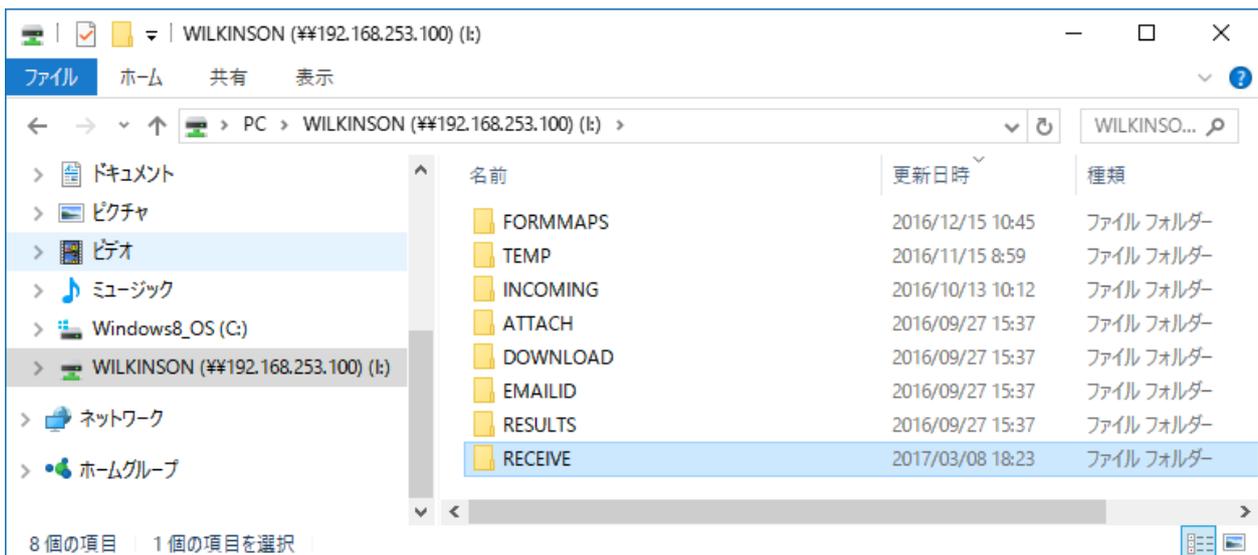
WilComm用に設定しているネットワークドライブ(I)を開きます。



ネットワークドライブ内に **RECEIVE** というフォルダを作成します。

※このフォルダ名は、任意の名前で作成することができますが、後で解説する添付ファイルのデータを取り込むためのプログラムを作成でこの名前が出てきますので、ここでは **RECEIVE** で作成して先へ進んでください。(RECEIVE はすべて英大文字とします。)

フォルダ名とデータ取り込みプログラムの関係が理解できましたら、フォルダ名を変更して頂いても問題ございません



# WilMail 受信機能(ユーザープログラムの作り方)

## 2. 添付ファイル保管先の設定

WilMail 受信機能でメール添付ファイルの保管先となるフォルダの設定を行います。

1. 受信メールの添付ファイルを保管するためのフォルダ（上記1で作成したフォルダ）をネットワークドライブに接続します。

← ネットワークドライブの割り当て

割り当てるネットワーク フォルダーを選択してください

接続するフォルダと使用するドライブ文字を指定してください:

ドライブ(D): Z: ▼

フォルダ(O): \\192.168.253.100\WILKINSON\RECEIVE ▼ 参照(B)...

例: \\server\share

サインイン時に再接続する(R)

別の資格情報を使用して接続する(C)

[ドキュメントと画像の保存に使用できる Web サイトに接続します](#)

完了(E) キャンセル

注意) ドライブ：IはWilCommの基本機能で接続され使用されますのでIドライブ以外を使用するようにします。

後で解説する添付ファイルのデータを取り込むためのプログラムを作成で、ドライブ名にZを使用した前提で説明されているため、ここではZドライブに割り当てます。

## WilMail 受信機能(ユーザープログラムの作り方)

### 2. WilComm Config を実行します。

※WilComm Ver. 4.2 または Ver. 4.8 の場合は、デスクトップにある WilComm 4 フォルダを開きます。

※WilComm Ver. 5 の場合は、デスクトップにある WilComm フォルダを開きます。

ウィルコムで受信するためのメールアカウントを選択(もしくは新規作成)し、詳細画面を表示します。

新規ウィルコム Eメール ユーザーの追加

ユーザー ID: demo  
ウィルコム Eメール ユーザーのユーザー IDは、重複して使用することはできません

氏名: WilComm受信用メール

送受信タイプ:  
 送信のみ  受信のみ  送信と受信

Eメール受信

POP ユーザー名: demo

POP パスワード: \*\*\*\*

POP パスワード: \*\*\*\*

デコードした添付ファイルを保管するディレクトリ:  
Z¥

Eメール送信

メールボックス名: demo  
メールボックス名は、Eメール アドレスの "@" マークの左側部分

送信メールに添付するファイルを取り出すディレクトリ:  
Z¥WilComm Outgoing Email Attachs¥demo

ウィルコム Eメール メッセージ送信用にEメール ユーザーが設定されていなかった場合、このEメール ユーザーを送信者として使用する。

OK キャンセル

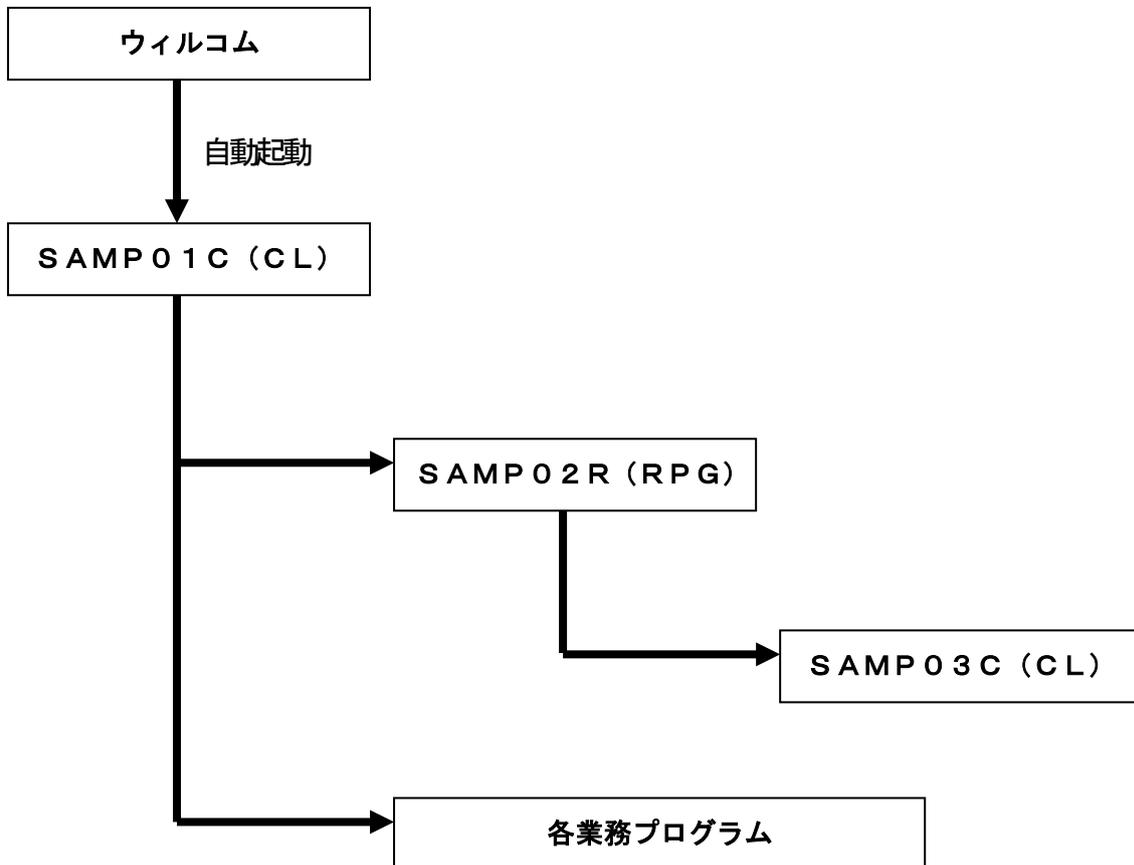
受信メールの添付ファイルの保管先を指定します。入力域の右側のボタンを押すことにより参照/選択が行えます。

添付ファイル保管先の設定は以上です。

## 3. 添付ファイル取込サンプル・プログラム

受信メールの添付ファイル (CSVファイルまたはテキストファイル) を iSeries に取り込むためのサンプル・プログラム。

### 1. 機能フロー



### 2. 機能概要説明

#### ① SAMP01C (CL)

このCLプログラムをウィルコムの検索テーブルに登録することで、ウィルコムはメールを受信する都度、自動的にこのプログラムを起動します。(検索テーブルの登録方法については、マニュアル「WilMail 受信機能」MAL021を参照してください。)

受信メール本文は、iSeries上のソースファイル(WILCOMMCHG/INCOMING)に1メール1メンバーで取り込まれます。このプログラムで読み込み対象メンバー(該当メールデータ)を決定します。また、各業務ロジックを組み込むことにより業務別の処理を行うことが可能です。

## WilMail 受信機能(ユザ - プログラムの作り方)

---

### ② SAMP02R (RPG)

受信メールの添付ファイルは、iSeries IFS 上の任意のフォルダ（上記の「添付ファイル保管用フォルダの作成」及び「添付ファイル保管先の設定」で設定したフォルダ）に取り込まれますが、保管先のパス名、保管ファイル名は上記①のソースファイルメンバー中に書込まれます。このRPGプログラムで上記①のソースファイルメンバーを読み取り、添付ファイルが保管された保管先パス、ファイル名情報を取得します。

### ③ SAMP03C (CL)

上記②で取得した保管先パス名、ファイル名をもとに iSeries IFS 上の任意のフォルダ（上記の「添付ファイル保管用フォルダの作成」及び「添付ファイル保管先の設定」で設定したフォルダ）に保管された添付ファイルを、デリミタ（区切り文字）付きでワークファイル（物理ファイル：1レコード1フィールド）にコード変換を行いながらコピーします。（`CPYFRMSTMF` コマンド）

その後このワークファイルよりフィールド定義のある（DDS）ワークファイル（物理ファイル）へコピーします。（`CPYFRMIMPF` コマンド）

### ④ 各業務プログラム

上記③で作成したDDS情報を持ったワークファイルをもとに各業務システムの整合性チェックを行います。

# WilMail 受信機能(ユザ -プログラム)の作り方

## 3. 機能詳細説明

### ① SAMP01C (CL)

```
***** データの始め *****
0001.00      PGM      PARM(&P1 &P2 &P3 &P4)
0002.00
0003.00      DCL      VAR(&P1) TYPE(*CHAR) LEN(10)
0004.00      DCL      VAR(&P2) TYPE(*CHAR) LEN(10)
0005.00      DCL      VAR(&P3) TYPE(*CHAR) LEN(10)
0006.00      DCL      VAR(&P4) TYPE(*CHAR) LEN(1)
0007.00
0008.00      OVRDBF   FILE(INCOMING) TOFILE(WILCOMMCHG/INCOMING) +
0009.00      MBR(&P1)
0010.00 /* 保管フォルダファイル名取得 */
0011.00      CALL      PGM(SAMP02R) PARM(&P1)
0012.00      MONMSG    CPF0000
0013.00
0014.00      DLTOVR   FILE(*ALL)
0015.00
0016.00 RETURN:  RETURN
***** データの終り *****
```

ウィルコムから4つのパラメータが渡されます。

パラメータ1 (P1) に受信メール本文を保管したソースファイルのメンバー名がセットされていますので、このメンバーをOVRDBF コマンドで指定します。  
ソースファイル名=**INCOMING**  
ソースファイル・ライブラリ = **WILCOMMCHG**  
※4. 補足① (受信メールの内容が保管されたソースファイルのサンプル) を参照

受信メール本文の内容が保管されたソースファイルメンバーを読み取るRPGプログラムを実行します。

# WilMail 受信機能(ユーザプログラム)の作り方

## ② SAMP02R (RPG)

```

***** データの始め *****
0001.00 H      Y
0002.00 F/TITLE SAMP02C
0003.00 F*
0004.00 FINCOMING IP F  132      DISK
0005.00 F*
0006.00 E          FIL    50  1
0007.00 E          TBL    3  1
0008.00 I INCOMING AA
0009.00 I          1 132 ALL
0010.00 I          29 30 KEY1
0011.00 I          32 81 DOC
0012.00 C      *ENTRY  PLIST
0013.00 C          PARM      MBR  10
0014.00 C*
0015.00 C      KEY1  IFEQ 'Z:'
0016.00 C**** 添付ファイル拡張子の取得
0017.00 C          MOVE*BLANKS WKFIL  3
0018.00 C          MOVEA*BLANKS FIL
0019.00 C          MOVEA*BLANKS TBL
0020.00 C*
0021.00 C          MOVEADOC  FIL
0022.00 C          Z-ADDO    I    20
0023.00 C          MOVE *OFF  *IN90
0024.00 C      *IN90  DOMEQ*OFF
0025.00 C          ADD 1      I
0026.00 C      FIL, I  IFEQ '.'
0027.00 C          MOVE *ON   *IN90
0028.00 C          ENDIF
0029.00 C      I      IFEQ 50
0030.00 C          MOVE *ON   *IN90
0031.00 C          ENDIF
0032.00 C          ENDDO
0033.00 C*
0034.00 C      I      IFLT 50
0035.00 C          Z-ADDO    J    20
0036.00 C          MOVE *OFF  *IN90
0037.00 C      *IN90  DOMEQ*OFF
0038.00 C          ADD 1      I
0039.00 C          ADD 1      J
0040.00 C          MOVE FIL, I  TBL, J
0041.00 C      I      IFEQ 50
0042.00 C      J      OREQ 3
0043.00 C          MOVE *ON   *IN90
0044.00 C          ENDIF
0045.00 C          ENDDO
0046.00 C          MOVEATBL  WKFIL
0047.00 C          ENDIF
0048.00 C**** 拡張子がTXT、CSVのみデータを取り込む
0049.00 C          WKFIL  IFEQ 'CSV'
0050.00 C          WKFIL  OREQ 'TXT'
0051.00 C          CALL 'SAMP03C'

```

受信メール本文の内容が保管されたソースファイルメンバーを読み取ります。

添付ファイルの保管されたフォルダ・ファイル名を検索するために、ソースファイルのレコード様式に対して項目手定義を行う。  
29-32 桁目に保管先パスのドライブ名  
32 桁目移行には保管ファイル名

添付ファイルを保管するためにネットワークドライブに接続したフォルダのネットワークドライブ名

添付ファイルの拡張子が CSV または TXT のみを取り込みます。添付ファイルを物理ファイルに変換するための CL プログラムを実行します。

# WilMail 受信機能(ユーザープログラムの作り方)

```

0052.00  C          PARM      DOC
0053.00  C          PARM      MBR
0054.00  C          ENDIF
0055.00  C*
0056.00  C          ENDIF
0057.00  C*
***** データの終り *****

```

## ③ SAMP03C (CL)

```

***** データの始め *****
PGM      PARM (&DOC &MBR)

DCL      VAR (&DOC) TYPE (*CHAR) LEN (50)
DCL      VAR (&MBR) TYPE (*CHAR) LEN (10)
/** 固定値・フォルダ名 */
DCL      VAR (&FLR) TYPE (*CHAR) LEN (50) +
          VALUE ('/WILKINSON/SI/RECEIVE/')
/** 固定値・ファイル */
DCL      VAR (&FIL) TYPE (*CHAR) LEN (6) VALUE ('WKFILE')
/** 固定値・ライブラリー */
DCL      VAR (&LIB) TYPE (*CHAR) LEN (10) +
          VALUE ('WILCOMMCHG')

DCL      VAR (&PARM1) TYPE (*CHAR) LEN (50) /* FROM */
DCL      VAR (&PARM2) TYPE (*CHAR) LEN (50) /* TO */

/** ワークファイル作成 (1レコード1フィールド) */
CHKOBJ   OBJ (&LIB/&FIL) OBJTYPE (*FILE)
MONMSG   MSGID (CPF0000) EXEC (DO)
CRTPF    FILE (&LIB/&FIL) RCDLEN (2000) IGDTA (*YES) +
          MAXMBS (*NOMAX)

ENDDO

/** FROM パラメータ設定 */
CHGVAR   VAR (&PARM1) VALUE (&FLR *TCAT &DOC)
/** TO パラメータ設定 */
CHGVAR   VAR (&PARM2) VALUE ('QSYS.LIB/' *TCAT &LIB +
                              *TCAT '.LIB/' *TCAT &FIL *TCAT +
                              '.FILE/' *TCAT &MBR *TCAT '.MBR')

/** 添付ファイルコピー (1レコード1フィールド) */
CLRPFM   FILE (&LIB/&FIL) MBR (&MBR)
MONMSG   MSGID (CPF0000)
CPYFRMSTMF FROMSTMF (&PARM1) TOMBR (&PARM2) MBROPT (*ADD)

/** 添付ファイルコピー (フィールド定義) */
CPYFRMIMPF FROMFILE (&LIB/&FIL &MBR) TOFILE (XXXLIB/SAMPLE +
          *FIRST) MBROPT (*ADD)

RETURN
***** データの終り *****

```

添付ファイルの保管先フォルダ名、1レコード1フィールドのワークファイル名、ワークファイルの保管ライブラリ名を固定値として定義します。ワークファイルの名称・ライブラリは任意に設定して結構です。

1レコード1フィールドのワークファイルを作成します。

1レコード1フィールドのワークファイルに添付ファイルの内容をデリミタ(区切り文字)付きでコピーします。  
**CPYFRMSTMF**

添付ファイルの内容が入ったワークファイルより、その内容をDDS情報を持ったファイル(物理ファイル: SAMPLE)へ項目毎にマッピングしコピーします。(4. 補足②参照)  
**CPYFRMIMPF**

## 4. 補足

### ① 受信メールが保管されたソースファイルのサンプル

保管ライブラリー: **WILCOMMCHG** 保管ファイル名: **INCOMING**

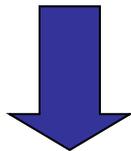
```
***** データの始め *****
0002.00 FROM: KOIDE TOSHIYUKI <KOIDE@FAIRDINKUM.CO.JP>
0003.00 SENT: FRI, 04 JUL 2003 09:47:53 +0900
0004.00 TO: DEMO@FAIRDINKUM.CO.JP
0005.00 CC:
0006.00 SUBJECT: メール受信テスト
0007.00 ATTACHED FILES: 1
0008.00 STORED IN: Z:¥ メール受信用テストデータ.TXT
0009.00
0010.00 メール受信テストデータの送付
0011.00
0012.00 キーワード: SAMPLE
0013.00
***** データの終り *****
```

添付ファイルを保管したフォルダ、ファイル名がソースファイルに記述されます。

# WilMail 受信機能(ユザ-プログラム)の作り方

② iSeries IFS 上の任意のフォルダから、添付ファイルを物理ファイルへのコピー

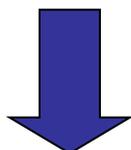
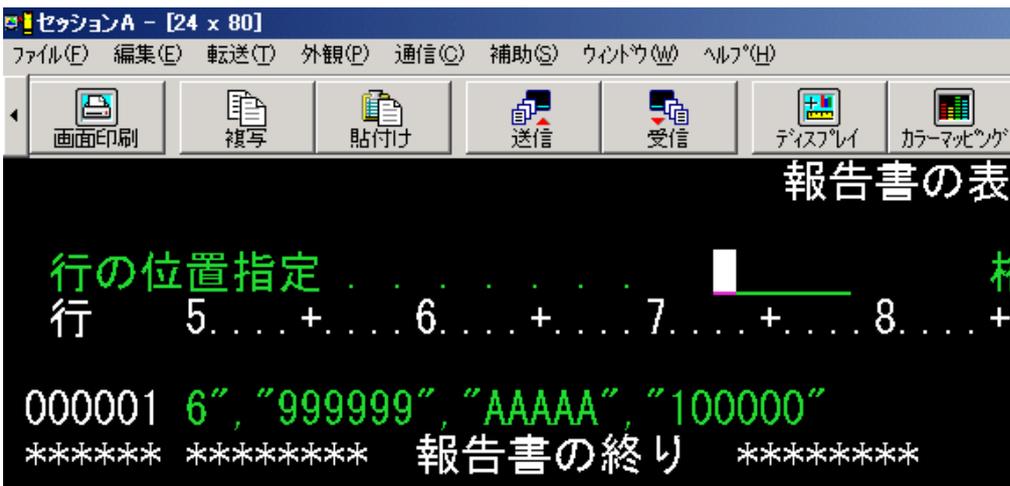
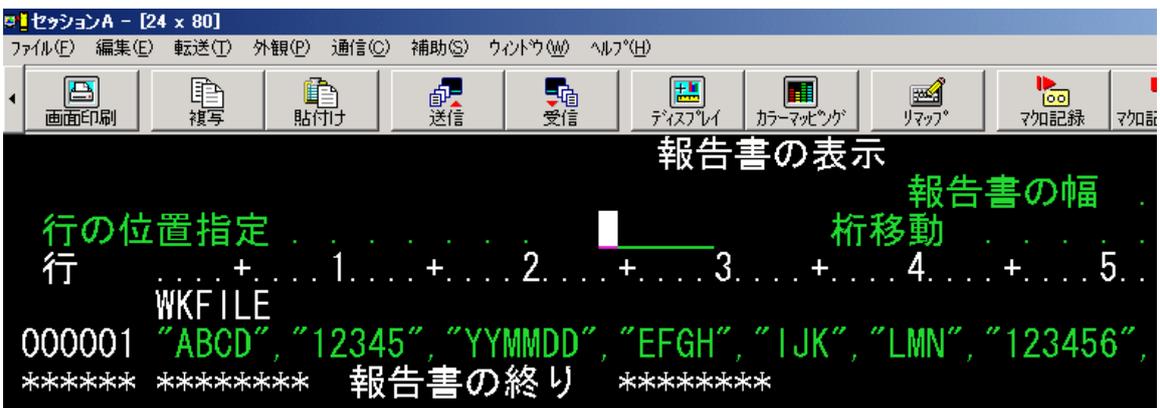
<添付ファイルの内容>



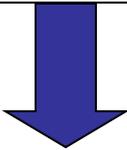
CPYFRMSTMF コマンド

添付ファイル名は漢字やロングネーム (12文字以上) の使用が可能

<1フィールド1レコードの物理ファイルの内容>



# WilMail 受信機能(ユザ-プログラムの作り方)



**CPYFRMIMPF** コマンド

DDS 情報を持った物理ファイルご項目毎にマッピングしコピー

<物理ファイル: DDS 情報のあるファイルの内容>

```
セッションA - [24 x 80]
ファイル(F) 編集(E) 転送(T) 外観(P) 通信(C) 補助(S) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)
画面印刷 複写 貼付け 送信 受信 ディスプレイ カラーマッピング リマップ マカ記録 マカ記録停止
報告書の表示
行の位置指定 報告書の幅
行 + 1 + 2 + 3 + 4 + 5 +
DATA1 DATA2 DATA3 DATA4 DATA5
000001 ABCD 12345 YYMMDD EFGH IJK
***** ***** 報告書の終り *****
```

```
セッションA - [24 x 80]
ファイル(F) 編集(E) 転送(T) 外観(P) 通信(C) 補助(S) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)
画面印刷 複写 貼付け 送信 受信 ディスプレイ カラーマッピング リマップ マカ記録 マカ記録停止 再生
報告書の表示
行の位置指定 報告書の幅
行 + 6 + 7 + 8 + 9 + 10 + 11 +
DATA6 DATA7 DATA8 DATA9 DATA10
000001 LMN 123456 999999 AAAAA 100000
***** ***** 報告書の終り *****
```

(注意) CPYFRMIMPF コマンドはヌル値 (空白値) などがコピーできません。

また、データ属性が合致していない場合はコマンドエラーになる事がありますので、コピー先のDBは、全てのフィールド属性がテキストであると確実かも知れません。